

ごあいさつ



日本赤十字社医学会
理事長 **富田 博樹**
(日本赤十字社事業局長)

本医学会は昭和 39 年に発足してから今年で丁度半世紀に当たる 50 回目の総会を迎えます。これもひとえに会員の皆様のご支援ご協力のおかげであり、心から御礼を申し上げます。

本学会は、会則にも定められているように、日本赤十字社に勤務するすべての職員の赤十字事業に関する知識と技術の向上を目的としております。本総会においても、過去最多となる 960 題にのぼる様々な分野の演題が、医師、看護師、事務職員、血液センター職員など、多岐にわたる職種から発表される予定であると聞き及んでおります。

総会では、『原点をみつめ 世界へ飛翔 ～赤十字が果たすべき使命～』をメインテーマに掲げ、五百箇頭真、鳥越俊太郎 両氏の特別講演や、石井正、矢野真 両氏によるシンポジウムなど、充実したプログラムが用意されております。そして、前回の和歌山での総会に引き続き、赤十字病院間でのそれぞれの臨床科同士の横のつながりを強めることを目的としたセッションが規模を拡大して準備されております。各臨床科がお互いに学び合い、教え合い、助け合って大きな赤十字病院グループとして我が国の臨床部門をリードするグループとなることを目指しましょう。また、演題発表の中には、近年、国内外で頻発する自然災害等に対する救護活動について、国内外合わせて約 70 題ほどの演題発表が予定されており、各施設での取り組みを共有し、赤十字の特色である災害救護の更なる機能強化が図られることを期待しております。

さて、今回の総会開催地である熊本は、西南戦争における田原坂の戦いで敵味方の区別のない救護活動を行った日本赤十字社の前身である『博愛社』発祥の地であり、これが日本赤十字社発祥の地といわれる所以であります。熊本赤十字病院はこの地に昭和 19 年 4 月、日本赤十字社熊本県支部診療所として開設され、戦災による建物の焼失などを乗り越え、地域の医療ニーズに応えるべく、診療科部の増設、施設設備の整備や充実に専心し、現在の病床数 490 床の地域の中核病院に発展してきました。特に、救急医療に積極的に取り組み、昭和 55 年にはいち早く救命センターの指定を受け、今日に至るまで活動してきました。赤十字の特色である救護活動においても、東日本大震災などの国内災害のみならず、日本赤十字社の「国際医療救援拠点病院」として多くの人材を海外に派遣するなど、赤十字病院グループ

を牽引するリーダー病院の一翼を担っております。これは、赤十字の理念の実践に優れたリーダーシップで病院を率いる一二三 倫郎院長及び歴代の院長方と、献身的な働きをしてきた職員の方々の努力の賜物であります。

日本は2025年にピークを迎える超高齢社会に向かっており、国による医療・介護機能の再編は進み、今後も医療を取り巻く環境はますます厳しくなっていくでしょう。こうした中、全国92の大小様々な機能を有する病院で構成され、職員数52,000人を擁する、赤十字病院グループに対する国民からの期待は非常に大きく、また、それに答えることが日本赤十字社の使命でもあります。このため、今後はより一層赤十字のグループ力を強化し、病院、介護施設、福祉施設などが一体となった対応をすることが必要不可欠であります。日本赤十字社として、今後の社会環境の変化に柔軟に対応し、継続して事業を展開していくためにも、本学会が赤十字職員のディスカッションの場となり、日本赤十字社全体が成長していくための基点となることを願っています。

最後になりますが、第50回という記念すべき本総会を、周到な準備のもと、最大規模で開催してくださる熊本赤十字病院の一二三倫郎院長をはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。会員の皆様には、今後とも本学会と赤十字グループの更なる発展のため、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。